

市役所新庁舎建設工事安全祈願祭と起工式を挙行

去る9月14日、市役所中央庁舎敷地内で、「南あわじ市新庁舎建設工事安全祈願祭」主催…「大林 柴田特別共同企業体」が行われました。

祈願祭には中田市長をはじめ、市議会議員、設計者、施工者、関係自治会長、元庁舎等公共施設検討委員会委員など関係者約70人が参列し、工事の安全と一日も早い完成をめざして厳粛に執り行われました。



▲庁舎建設工の安全を祈る中田市長

を守る防災拠点としての機能を発揮できる新庁舎として、安全に一日も早い完成を祈ります」とあいさつしました。

現在市庁舎は5つに分散しており、要件によっては庁舎間の移動をお願いするなど時間的・経済的負担をおかけしています。しかし、新庁舎の完成により、一元的な行政サービスが提供できるようになり、市民の皆様の利便性向上、職員の適正配置による組織のスリム化、経費の削減など行政経営全般に渡って多大な効果が期待できます。さらには防災拠点や災害対策本部拠点、災害復旧・復興拠点としての役割を果たすことができます。

新庁舎は鉄筋コンクリート造・4階建・免震構造を採用しており、1階には市民窓口サービス業務を担当する市民生活部、健康福祉部などを配置するほか、市民活動など市民の皆様への開放スペースを設ける予定としています。

また2階には産業、都市整備部門を、3階には総務企画部門を、4階には議会部門を、



▲新庁舎外観完成予想イラスト(左)と1階市民ロビー完成予想イラスト(右)

現中央庁舎には教育部門をそれぞれ配置予定としています。

新庁舎は平成27年4月の開庁をめざして建設工事が間もなくスタートします。周辺の皆様には何かとご迷惑をおかけいたしますが、ご理解をいただきますようお願いいたします。

淡路人形座がワシントン州で公演



▲帰国報告会が8月26日、市役所で開かれました

兵庫県と米国ワシントン州の友好提携50周年を記念して淡路人形座が同州シアトルで公演を行いました。座員12人らが8月16日から22日まで県の伝統文化を代表して淡路人形浄瑠璃の魅力を披露しました。戎舞などの上演や記念レセプションへの参加、人形劇団や子どもたちの交流もあつて、座員らは「各所で大歓声を受け嬉しくなるような反応だった。さらに友好を深める橋渡しができて大役を果たせたと笑顔でした。」

農業学生研修事業

2人の女子高生が研修

後継者育成につなげようと市が農業学生を受け入れる事業で、8月26日から約5日間、県立農業高等学校(加古川)の2人が、酪農家 小林重明さん(広田)のもとで研修をしました。

大西晃歩さん、大盛佳奈美さんは「将来は動物にかかわる仕事をしたい。酪農家になつて観光牧場を経営したい」という夢を持っています。小林さんは「2人とも非農家だが、やる気があり、てきぱきと2生懸命。彼女らのような意欲のある若者を、さらに支援する取り組みが必要」と話していました。



▲牛舎で研修する2人の女子高生

元気で長生き100歳をお祝い



▲中田市長から祝い状を受けた鶴澤友路(宮崎君子)さん

市内で今年度100歳を迎えられる高齢者18人のうち、訪問を希望する3人を9月1日、中田市長が訪問して、祝い状と記念品の羽毛布団を贈り、長寿をお祝いしました。

義太夫節三味線の人間国宝 鶴澤友路さん(本名…宮崎君子さん)…福良は、現在も自宅で淡路人形浄瑠璃の語り和三味線の指導をしています。

鶴澤さんは、好きな芸を続けてこられて幸せ。教えるのが楽しく、芸は一生勉強。まだまだがんばります」と笑顔で話しました。

矢谷氏、副市長に就任

先月の定例議会で矢谷浩平氏が2人目の副市長として同意され、今日1日に就任しました。

市政に取り組むにあたり矢谷副市長は「私は関西出身で淡路島には愛着がある。これまで農林水産省で得た知見を活かし、市の発展に貢献したい。市民のみさんの視点や声を大切に、ともに元氣な南あわじづくりに挑戦したい」と力強く意気込みを話してくれました。



▲矢谷副市長

副市長 矢谷浩平(50)

▽経歴 昭和61年に九州大学農学部卒業後、農林水産省入省。同省関東農政局企画調整室長、同省関東農政局横浜地域センター長などを歴任

▽任期 平成25年10月1日〜平成29年9月30日

若人の広場公園整備工事が始まる



▲「若人の広場」の再整備後のイメージ図

市は「若人の広場」を瀬戸内海国立公園の豊かな自然景観のもと、市民や観光客が憩える

都市公園として再整備します。

9月8日、市と施工業者の森長柴田太田特別共同企業体は、関係者約70人の出席のもと安全祈願祭と起工式を行いました。総事業費は約12億6千万円、平成27年春の完成を目指します。

同広場は、「戦没学徒を記念する広場」として建築家 丹下健三氏が設計して昭和42年に開設されましたが、平成7年の震災の影響などで閉鎖中でした。市は平成22年に土地、建物等を3千万円で取得して再整備計画を進めました。



▲安全祈願祭で、くわ入れを行う中田市長

多くの人が憩える都市公園にするため、高さ約25mの記念塔や石積みの管理棟は耐震性を強化して整備します。記念塔は夜にはライトアップ、管理棟内部には展示や研修、休憩スペースに改築。展望広場やトイレも整備し、公園内には桜の木を植樹して花見の名所にする計画です。

交通死亡事故多発に非常事態宣言

市内における交通死亡事故者数が6人となった9月6日、市交通対策協議会は「交通死亡事故多発非常事態宣言」を発令し、交通安全啓発の「交通安全なくし隊」の出発式が行われました。

※次のことをご注意ください

◆車を運転する人

①周囲への気配り・目配りを持って、速度を控えた運転をしましょう

②早めのライト

点灯(午後5時)を実践しましょう

③ライトでは見えない所が多くある事を理解した上で運転するようにしましょう

◆歩行者・自転車に乗る人

①信号、横断歩道のあるところを必ず渡りましょう

②自転車は車と同じ。ルールを守りましょう

③早朝・夕暮れ時は、明るい服装や夜光反射材を活用しましょう

④自転車も早め早めに点灯しましょう



▲「交通事故なくし隊」のメンバー